

ヨコハマR委員会 第4回全体会議

日時：平成24年5月18日（金）

15：00～17：00

場所：松村ビル地下1階会議室

1 あいさつ

委員長：検討会議においても、非常に活発な意見や方向性が出されたことと思う。「R委員会」もまた新しい年度を迎え、この委員会での取組を皆様に発信していき、普及させていく段階に来ていると思う。市民・事業者の皆様が直接会して意見を交換しあう、非常に貴重な場でもあるので、横浜らしい、新しいリデュースのかたちが見えてくると良いと思う

局長：今年度は実質的に2年目「3R夢アクションの年」と位置付け、分かりやすく取組みやすい活動を広報や説明会を通してPRしていきたいと考えている。少しでも多くの取組が市内各所で実現できるよう、意見交換をしながら進めていっていただきたい。委員が主体的に取り組む組織として2つのプロジェクトを立ち上げたと聞いている。各視点からより良いものにしていただきたい。ライフスタイルの転換には地道な活動が必要不可欠だと思うので、さらなるリデュース行動の推進のため活発な意見交換をお願いしたい。

2 委員紹介

3 議事

(1) アドバイザー委員の選出について→加藤委員（継続）、坂本委員（新規）に決定

(2) 報告

① 検討委員会における検討状況等報告

事務局：（各提案の状況報告）

委員長：食べきり協力店モデル事業とあるが、事業者としてはどう思うか。

委員：ごみが減れば経費削減に繋がるので大いに推進したいとは考えている。「①小盛りメニュー等の設定」→お客様からのリクエストという形で既に実施しているが、半分がいいと言われた場合、半分でも値段は半額にはできないので価格設定が難しい。「②持ち帰り希望者への対応」→ここが一番難しいという意見が多かった。市内ホテルで宴席にドギーバッグを導入している例もあるが、食中毒を心配しており、自己責任という認識が広がらないと怖い。「③食べ残しを減らすための呼びかけ実践」と「④ポスター等の啓示による、食べ残し削減に向けた啓発活動の実施」→呼びかけ・掲示は賛成意見も多かったなので、ぜひ実践したい。「⑤上記以外の食べ残しを減らすための工夫」→食材の食べかすなど総量は変わらないかもしれないが、仕入れ時にある程度下処理されたものを仕入れて食品残さを減らす取組を行っている。

委員：高齢者の視点で考えているが、提供される側としてシニア向けにあらかじめ量が

少ないものを提供してほしい。宴会等で、ほとんど残ってしまうのもったいない。値段は同じでいいが、量を減らした形で考えられたものを提供してほしい。

委員長：食べ残しをしないために適切な量を頼む、その際の価格設定をどう考えるか、持ち帰りをどう考えるかについて意見はあるか。

委員：食欲が無くても言いにくいので、店頭にステッカーがあれば言いやすくなると思うのでいい案である。既に小盛りメニュー等を展開している店舗からステッカーを貼れば浸透するのではないか。

委員：食中毒が起きれば、信用問題にかかわり、また、営業停止になってしまい、行政としては個人の自己責任ではなく法律上の取り締まり対象とせざるを得ないことが問題だろうと思う。

委員：持ち帰りについて、「自分で管理してください」というシールがあってもいいのではないか。確認した上で食べる人の責任になるようにできないか。

委員長：双方が合意した上で、何かが起こった場合は誰が責任を取るのかも問題だろう。アイデアとしてはとてもいいと思う。

委員長：食べ残しは個人の問題だけではなく、他の問題も抱えているということを周知できたらいいかもしれない。健康、環境、廃棄物、食料問題など色々な問題が後ろにあるので、市民の目線で考えられるようになればいい。量を減らすことで価格が下がるということには繋がらないと思うが、サービスの一環として量を手軽に変えられるようになればいい。

委員：取組には大いに賛成する。懇親会等では必ず食べ残しが出るので、例えば参加人数の半分の量で対応してくれるといった協力方法もあるかもしれない。また、食品廃棄物の発生抑制と食品ロスの削減効果をどう見るか。効果測定方法について検討が必要だと思う。

委員長：市全体の取組となると大きな取組になる、更に横浜市ならではの取組になったらいいと思う。

②その他の活動報告→事務局から説明

- ・「ヨコハマRひろば 2011」について
- ・ウェブサイト及び「3R夢パートナー」「3R夢サポーター」の運営状況について

(3) 平成 24 年度の活動について

活動方針及び活動内容について→事務局から説明

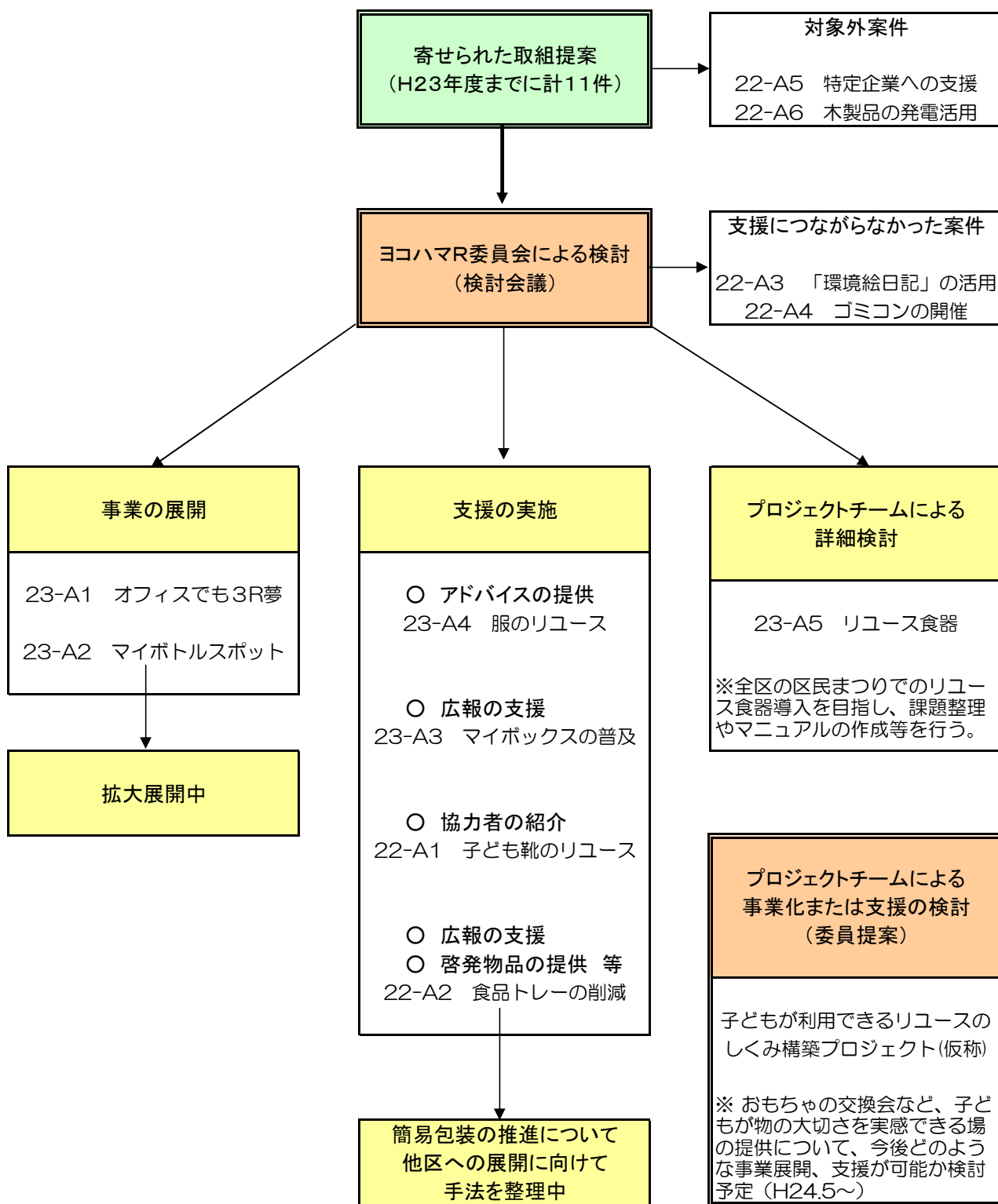
委員長：取組の成果をどうはかるかが重要であり、食品トレーをなくすのはいいが、拡大した時の問題などについてもデータとして蓄積しているか。今後のことも考え、同じような形、フォーマットで蓄積していくことが大切である。それは本委員会の中だけではなく、他の自治体や事業者・市民団体にも提供できるようになると思うので、ある程度動き出し検証できるようになった時点で、同じようなフォーマットでデータを蓄積していったら良いと思う。今年度は、2つのプロジェクトチームも発足したが、これから開催する子どものプロジェクトについても熱心に議論が進められれば良いと思う。

(原案について一同了承)

※受付件数 合計14件(平成22年度:6件、平成23年度:5件、平成24年度:3件)

| No. | 概要 | 支援内容等 | 昨年度の実施状況等 | 検討会議 | 検証 | 今後の展開 |
|-------|---|--|---|----------|-----|--|
| 22-A1 | その多くが捨てられてしまう子ども用の古靴を集め、ボルネオ島の子供達に送りたい。 | (H22)提案者居住区内のリサイクルショップに、協力の可能性について打診し、提案者に紹介。 | 緑区内のリサイクルショップにおいて、引き続き店頭回収を実施中。 (回収数合計:100足 ※3月末現在) | 第1回 | 第5回 | 取組継続中 |
| 22-A2 | スーパーなどの小売店における肉や魚の販売に使われている食品トレーを削減するために、スーパーの協力を得て啓発キャンペーンを実施する。 | (H22) ・チラシや啓発物品の作成支援、提供 ・記者発表などによる広報、区内の町内会掲示板へのポスター掲出調整 ・キャンペーン当日のスタッフ応援(記録係、取材対応等) (H23) ・チラシ作成支援、ジャンパー貸与、啓発物品の提供 | 食品トレーを使用しない食料品の販売イベント(生鮮エコ朝市)を3回実施し、PRチラシ等を配布して啓発活動を行った。 (11/5Fuji橋戸店、11/14コープ瀬谷橋戸店、11/26そうてつローゼン三ツ境店) | 第1回～第4回 | 第5回 | 生鮮エコ朝市を開催(5/26、6/23)市内スーパー6店舗においてキャンペーンを開催(6月) |
| 23-A1 | 関内地区において、コンビニエンスストアと事業所の協力を得て、利用者にレジ袋と割り箸の辞退を呼び掛けるキャンペーンを実施する。 | ・宣言参加事業者への呼び掛け等について支援する。 ・ポスター、バッジの作成や、記者発表などによる広報について支援。 | 関内地区エリアにある8社27店舗のコンビニエンスストアの協力を得て、4/20よりキャンペーンを開始。 10月に、7社28店舗でPRキャンペーンを実施。 | 第4回 | | |
| 23-A2 | マイボトルへの飲料提供を行う「マイボトルスポット」の設置拡大等を通じ、マイボトルの活用を推進したい。 | ・今後の推進策に関する意見を提供。 ・マークやPRツール(チラシ、のぼり)等に関する意見を提供 等。 | 昨年10月以降、これまでにチェーン系カフェ80店舗を含む102か所の新規登録があり、106か所に拡大した。4月には一般募集を開始した。 | 第5回～第8回 | | |
| 23-A3 | 繰り返し洗って使え、折りたたんで携帯できる食品用の箱である「マイボックス」を活用し、過程から捨てられる「包装容器廃棄物」を削減したい。 | ・ヨコハマRひろばウェブサイトやメールマガジンを活用し、協賛店募集のPRを行う。 ・今後、市内にマイボックスを有効に活用する協賛店が出てきたら、新たな取組としてウェブサイト等においてご紹介する。 | 9月から、客が持参したマイボックスを利用可能なお店(協賛店)の募集を開始し、埼玉県を中心に、約30店舗が登録。 | 第8回 | | |
| 23-A5 | リユース食器の普及促進等を通じて、区民まつり等のイベントにおける使い捨て容器の大量消費・大量廃棄を削減を図りたい。 | ※支援要望内容 ・イベントごみ削減のために、リユース食器の導入等の具体策を展開していくにあたり、課題の抽出や推進アイデアの提供等のご意見を伺いたい。 | ※区民まつり等の一部イベントにおいて、市からの補助金を受けてリユース食器を活用中。 | 第9回～第10回 | | |
| 24-A1 | 飲食店等において、小盛りメニューの設定や、宴会などの際に適量の料理を提供したり、食べ残しをしないようお店側からの声かけをするなど、食品廃棄物の発生抑制や削減に取り組んでいただける店舗を「食べきり協力店」として登録し、実践をお願いするモデル事業を実施する。 | ※支援要望内容 食品廃棄物の発生抑制や削減に取り組んでいただける店舗に実践をお願いするにあたり、ステッカーやチラシの作成や、取組推進アイデア等の支援をお願いしたい。 | | 第14回 | | |
| 24-A2 | 家庭で手軽に生ごみのリデュースができる土壌混合合法について、講習会の実施などのPRを通じて、市民に広く普及させていきたい。 | ※支援要望内容 ・土壌混合合法のPRを展開していくにあたり、事業実施に当たっての協力手法等について、ご意見、ご協力をいただきたい。 | | 第14回 | | |
| 24-A3 | 地主による整備が行き届いていない森林を整備し、得られた間伐材を有効に活用したい。 | ※支援要望内容 ・森林を整備し、得られた間伐材を活用して小物等日用品に加工して販売したい。これにより、プラスチック製品の代替化や燃料化も見込める。 | | 第14回 | | |

ヨコハマRひろばに寄せられた取組提案のヨコハマR委員会による検討状況について



瀬谷から ノントレー大作戦！ 生鮮エコ朝市

～瀬谷区における食品トレー削減の取組～

平成22年度に「そうてつローゼン三ツ境店」と「Fuji 橋戸店」の2か所でスタートした瀬谷区における食品トレー削減の取組である「生鮮エコ朝市」。

平成23年度には、「コープかながわ瀬谷橋戸店」を加え、3か所で行われました。

今年度は、前述の3つのスーパーで年2回、合計6回の「生鮮エコ朝市」を行うことが決まっています。

開催日程については、以下のとおりとなっています。



| | | | |
|-------|-----------|-------------|--------------|
| 平成24年 | 5月26日(土) | 10:00~12:00 | そうてつローゼン三ツ境店 |
| 平成24年 | 6月23日(土) | 9:00~12:00 | F u j i 橋戸店 |
| 平成24年 | 10月27日(土) | 9:00~12:00 | F u j i 橋戸店 |
| 平成24年 | 11月 5日(月) | 9:00~12:00 | コープかながわ瀬谷橋戸店 |
| 平成24年 | 11月24日(土) | 10:00~12:00 | そうてつローゼン三ツ境店 |
| 平成24年 | 12月 3日(月) | 9:00~12:00 | コープかながわ瀬谷橋戸店 |



みんなで使おう、マイボトル！



「マイボトルスポット」登録店舗等を募集します。

横浜市では、ごみを減らしていくライフスタイルを提案していく中で、マイボトルを活用しやすいまちづくりを目指して「マイボトルスポット」の設置を行っています。「マイボトルスポット」とは、外出先でもマイボトルに直接飲み物を入れられるスポットのことで、「マイボトルスポット」を増やしてPRを行っていくことで、マイボトルをより便利に使えるようにし、ごみの減量を図っていきます。

そこで、利用者が持参したマイボトルに飲み物を販売したり、お水やお茶などを無料で提供して下さる店舗や施設等を募集しています。多くの方のご参加をお待ちしております。

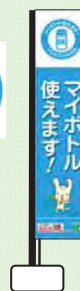


募集対象

飲み物を、利用者が持参したマイボトルに入れて販売したり、無料でお水などを提供する店舗、施設、事業所 等

「マイボトルスポット」のメリット

- ・ のぼり、ステッカー、チラシなどのPRツールを提供します。
- ・ 「ヨコハマ^{リデュース}Rひろば」ウェブサイトやチラシ等を通じて、店舗等のPRを行います。



申込方法

「ヨコハマ^{リデュース}Rひろば」ウェブサイト内のマイボトルスポット募集ページから登録申込用紙をダウンロードし、必要事項をご記入の上、ヨコハマ^{リデュース}Rひろば事務局（横浜市資源循環局3R推進課）にEメール、FAX、郵便のいずれかでお申し込みください。

「マイボトルスポット」募集ページ

http://www.r-hiroba.jp/torikumi/bs_boshu.html

※ ダウンロードが困難な方は、下記事務局までお問い合わせください。

ヨコハマRひろば事務局：横浜市資源循環局3R推進課

〒231-0013 横浜市中区住吉町1-13 松村ビル5F

電話：045-671-2530 FAX:045-663-5834 E-mail：sj-reduce@city.yokohama.jp

リユース食器プロジェクトの進め方についてープロジェクトチームの報告と提案ー

1. これまでの議論の経過

① 第1回プロジェクト会議 4月6日(金) p.m.

[検討事項]

- ・プロジェクトの進め方、目標について
- ・リーダーの選出（リーダー：戸川委員、サブリーダー：大川委員）

[決定事項]

- ・区民まつりを対象として検討する
- ・未実施区の副所長、係長等にヒアリングを行う
- ・共通のマニュアルを作成する

② 第2回プロジェクト会議 4月24日(火) a.m.

[検討事項]

- ・中区、保土ヶ谷区、港北区、都筑区から、現状と課題についてヒアリング

[決定事項]

- ・局から事務所、区にリユース食器の使用を呼びかける
- ・回収率を高めるために容器にシールを貼るなどの方策を検討
- ・どこかの区とタイアップしてモデル的に実施する（デポジット制度など）

③ 第3回プロジェクト会議 5月15日(火) a.m.

[検討事項]

- ・2回の会議をふまえて、今年度の取り組み方針、計画の検討

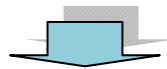
[決定事項]

- ・区民まつり実行委員会向けの説明資料として既存資料をもとにした「手引き」を作成する ⇒ 実行委員会での話し合いが始まる7月頃までを目途にする
- ・モデル区を選定し、協力を依頼する ⇒ 都筑区、保土ヶ谷区など
- ・モデル区が決まった後で、具体的なシステムを検討する（使い方・回収方法の工夫、デポジットの試行、PRの工夫、大学・高校生ボランティアの参加など）
- ・「もっとアピールする食器」のデザイン・商品開発などの可能性を検討する（次年度までかかる取り組みとして）

2. 取り組みの目標

課題

- ・回収率が悪い ⇒ 効果的・効率的なシステムの工夫が必要
- ・手間と人がかかる
- ・利用者にきちんとコスト転嫁できないと持続性がない
- ・リユース食器についての認知度が低い
- ・リユース食器だということがわかりにくい
- ・区民まつり以外に広がりが少ない ⇒ 他のイベントにも広げたい



プロジェクトの目標（24～25年度）

リユースカップについての市民の認知度を高めるとともに、いろいろなイベントに無理なく利用できるようなノウハウ・システムを広める

- ・認知度を高めるために区民まつりから広げて、全市のいろいろなイベントで活用されることを目標とする
- ・いろいろなイベントで活用できるようなマニュアルをつくり、普及する ⇒ そのためにモデル区で回収方法の工夫や新たな試みをやってみる
- ・利用者の目線から「使いたくなる食器」を考える（デザイン、開発をめざす）

3. 具体的な取り組み

① 全区の区民まつりで導入をめざす

- ・全市展開で一気にアピールする
- ・全区の区民まつり等でリユース食器の導入をはかる
- ・可能な範囲で実施してもらう
- ・積極的なPR、情報の発信を行う（全市でリユース食器利用の統一感の演出）
※現状：24年度の区民まつりで未定2区、導入予定なし4区



- 局から各事務所・区への働きかけ
- 実行委員会向けの説明資料の作成（既存資料をベースに手引き作成）

② モデル事業の実施

- ・モデル区を設定して、リユース食器普及の課題、対策を検証する
- ・デポジットシステムなど新しいシステムを実験してみる
- ・積極的なPR、情報発信の場とする



- モデル区の選定と調整（候補として、都筑区、保土ヶ谷区など）
- 関係者と協議しながらモデルシステムを検討する
- 大学生や高校生のボランティアとの連携を検討する
- 必要な資機材の準備
- 当日の運営と調査、結果の評価とまとめ
- マニュアルの作成

③ リユース食器のデザイン化プロジェクト

- ・創造都市にふさわしいデザインの開発
- ・デザインを含め、「使いたくなるリユース食器」を再考する
- ・統一サインなどを含め、全市での認知度を上げるための工夫を行う



- 当面は、既存食器にシールを貼るなどして、利用者にわかりやすくする
- デザイナー、クリエイター、市内の企業と「ヨコハマ R 食器」の共同開発をめざす
- 開発・製作費として、商品開発の助成金、企業スポンサーなどを検討する



ヨコハマRひろば2011

開催日時：平成23年12月11日（日） 10：00～15：00

開催場所：新都市プラザ（横浜そごう地下二階正面入口前）

ヨコハマR委員会が主催となり、ごみ減量のキーワードである「リデュース」について考えてもらう契機となるようイベントを開催いたしました。

楽しみながら「リデュース」を学ぶためのコーナーを用意し、当日は、寒い中、多くの市民の方にご参加いただくことが出来ました。



1 パネル展示・クイズラリーコーナー

食品トレー削減・マイボトルスポットの推進・子ども靴のリユースなどのヨコハマRひろばで支援した取組のほか、3Rに関する基礎的な情報や「ヨコハマ3R夢！プラン」などをA1サイズのパネルにして、展示しました。

また、そのパネルを元にクイズを作成し、クイズラリーを合わせて実施いたしました。クイズラリー終了者には、野菜保存用袋や、マイボトル用スポンジ、マイ箸などのリデュースに関する啓発物品を景品として差し上げました。

景品の数に合わせて520枚ほどの問題用紙をご用意いたしましたが、午後2時には問題用紙が無くなるほどの人気でした。

「これを機会に3Rやリデュースを詳しく知った」という声も聞かれ、またクイズになっていることから各パネルを真剣に読んでいらっしゃる方も多く、ヨコハマRひろばの取組内容や、来場者の方に3Rやリデュースについて知っていただく機会になりました。



2 みんなで選ぶマイボトルコーナー

「これからマイボトルを購入したいけど、マイボトルの種類が多すぎて、何を買ったら良いのか良くわからない」と思っている来場者に向け、分かりやすくマイボトルの種類と特徴を説明するために、実際に種類別にマイボトルを展示し、利点と難点を説明した上で、自分が欲しいと思うマイボトルに、シールを貼って投票してもらったコーナーを設置しました。

また、マイボトルの衛生面などを気にされる方も多いためマイボトルのメンテナンス方法とメンテナンス用グッズも展示しました。



マイボトルへの投票は全部で420人の方にご参加いただきました。結果は以下の通りです。

| | | |
|----|--------------|------|
| 1位 | スリムタイプ | 125票 |
| 2位 | ワンタッチ開閉タイプ | 108票 |
| 3位 | コップ付きタイプ | 90票 |
| 4位 | スクリューキャップタイプ | 51票 |
| 5位 | どっしりタイプ | 46票 |

3 体験コーナー

「風呂敷の包み方」「古着・古布を利用したリメイク」「古新聞等を活用したバッグ作り」の3つの講座を開催し、実際にリデュースにつながる行動を会場で体験することができるコーナーを開催しました。

午前と午後に1時間の時間を設けて、開催しましたが、午後は特に人が多く集まり、講座を待つ方も出るほどでした。そのため、午後の部は時間を延長して、講座を開催いたしました。

特に人気が高かったのは、「古新聞等を活用したバッグ作り」で、親子で参加されている姿が多く見られました。



次年度以降も同様の形式でイベントを開催するかは、今後、運営スタッフと検討していきますが、なんらかの形で「ヨコハマRひろば」そのものの広報と、ヨコハマR委員会で支援している取組についての啓発は続けていく必要はあると思います。

.ヨコハマRひろばウェブサイトについて

開設：平成22年10月1日

アドレス：<http://www.r-hiroba.jp/>

- 内容：①ヨコハマRひろばの説明
②リデュースの説明
③リデュースの取組や運動の説明
④3R関連イベント情報
⑤ヨコハマ3R夢（スリム）
サポーター・パートナー登録
※平成23年4月1日より登録開始
⑥3R関連サイトリンク集
⑦3Rの取組の提案フォーム
⑧メールマガジン
⑨ヨコハマRひろばブログ



◎サイトへの訪問者数（H23年度）

| | | | | | | | |
|-----|-------|----|-------|-----|-------|-----|-------|
| 4月 | 約1600 | 5月 | 約2000 | 6月 | 約2200 | 7月 | 約3000 |
| 8月 | 約2400 | 9月 | 約2200 | 10月 | 約3000 | 11月 | 約2600 |
| 12月 | 約1800 | 1月 | 約2200 | 2月 | 約2700 | 3月 | 約3000 |

◎ヨコハマ3R夢（スリム）サポーター・パートナーの登録状況

ヨコハマ3R夢（スリム）サポーター 236名（4月末現在）

ヨコハマ3R夢（スリム）パートナー 53事業者 8団体（4月末現在）



◎今後のウェブサイトの予定

「ヨコハマRひろばブログ」への委員の皆様の参加（今年度中）

ヨコハマ^{リデュース} R 委員会 平成24年度の活動について（案）

1 活動概要

- (1) 委員会に寄せられた新たな取組提案の実現に向け、必要とされる支援の検討やノウハウの提供等の支援を行う。
- (2) 支援を行った各取組の成果について、市民・事業者・行政の立場から検証を行う。
- (3) 寄せられた提案を基に、特に推進していくべき取組についてはさらなる展開を図る。
(回数の増、場所の拡大、内容の拡充 等)
- (4) 支援した取組やリデュースについて情報発信を行う。
- (5) 必要に応じてプロジェクトチームをつくり、効率的に調査・検討を行う。
- (6) 各委員の活動や、各地域・各業界のリデュースの取組等について情報交換を行い、相互理解を深める。
- (7) 委員が所属する組織の構成委員に対し、取組の支援協力について呼びかけたり、ヨコハマRひろばおよびヨコハマR委員会の活動について情報発信を行う。

2 活動の具体的な内容

- (1) プロジェクトチームによる検討
 - ① リユース食器プロジェクト
大型イベントのごみを減らしていくために、全区の区民まつり等においてリユース食器が導入されることを目指し、持続的に使用していくための課題の把握や、リユース食器を魅力のあるものにしていく工夫等について検討を行う。
 - ② 子どもが利用できるリユースのしくみ構築プロジェクト（仮称）
(5月23日に第一回会議開催予定)
- (2) 活動報告イベントの実施
ヨコハマR委員会に寄せられた提案と、その支援結果等の報告を行うとともに、リデュース全般について広くPRを行う。(例: 昨年12月開催「ヨコハマRひろば2011」)
- (3) その他PR活動
 - ・ ヨコハマRひろばウェブサイトの活用
 - ・ ヨコハマRひろばチラシの配布 等

3 年間スケジュール（予定）

2か月に1回（奇数月） 検討会議開催

※ 偶数月は、必要に応じてプロジェクト会議や勉強会、見学会などを実施。なお、検討すべき議題がある場合や、スケジュールに余裕のない提案が寄せられた場合等は、偶数月にも検討会議を開催する。

随時 プロジェクトチーム打ち合わせ

随時 有志によるイベント企画打ち合わせ

5月18日 全体会議開催（委員交代の確認、年間活動計画の検討 等）

11月9日 全体会議開催（取組支援の中間報告 等）

年1回 活動取組発表イベント開催

平成 23 年度ごみと資源の総量及び温室効果ガス排出量の実績 (推計) について

1 ごみと資源の総量

3R 夢プランでは、燃やすごみなどのごみ量に、古紙や缶・びんなどの資源の量も加えた「ごみと資源の総量」の削減を目標としており、平成 23 年度は基準年度の平成 21 年度に比べ 1.5%以上削減を目標としていました。

平成 23 年度のごみと資源の総量を推計すると約 127 万 8 千トンで、平成 21 年度と比べ、約 2 千トン (0.2%) 増加しました。

内訳として、家庭系の総量は約 92 万 7 千トンで、約 6 千トン (0.6%) 減少し、事業系の総量は約 35 万 1 千トンで、約 8 千トン (2.4%) 増加しました。

平成 23 年度 ごみと資源の総量 (推計値) 【単位：トン】

| | | ごみと資源の総量 | | | | | | |
|--------------------|-----------|-----------------|-------------------|--------------------|-------------------|-----------------|--------------------|-------------------|
| | | 家庭系 | | | 事業系 | | | |
| | | | ごみ量 | 資源化量 ^{※1} | | ごみ量 | 資源化量 ^{※2} | |
| 平成 23 年度 | | 1,277,900 | 927,100 | 613,700 | 313,400 | 350,800 | 311,000 | 39,800 |
| | 平成 21 年度比 | 2,456 (0.2%) | -5,733 (-0.6%) | 2,400 (0.4%) | -8,133 (-2.5%) | 8,189 (2.4%) | -7,428 (-2.3%) | 15,617 (64.6%) |
| 平成 21 年度 (基準年度) | | 1,275,444 | 932,833 | 611,300 | 321,533 | 342,611 | 318,428 | 24,183 |

・平成 23 年度推計値は、100 トン未満を四捨五入しています。
・ () 中の数値は、平成 21 年度との比を示しています。

【項目の説明】

- ※1 家庭系の資源化量は、行政が回収した資源化量と、資源集団回収の量の合計です。
- ※2 事業系の資源化量は、学校給食の残さの資源化量と、事業者が生ごみや剪定枝を資源化した量の合計です。

2 ごみ処理に伴って発生する温室効果ガス排出量

ごみ処理に伴って発生する温室効果ガスの平成 23 年度の削減目標は、基準年度の平成 21 年度に比べ 18%以上削減としていましたが、平成 23 年度の排出量を推計すると、約 25 万 6 千トンで、平成 21 年度と比べ、約 2 万 6 千トン (約 9.2%) 減少しました。

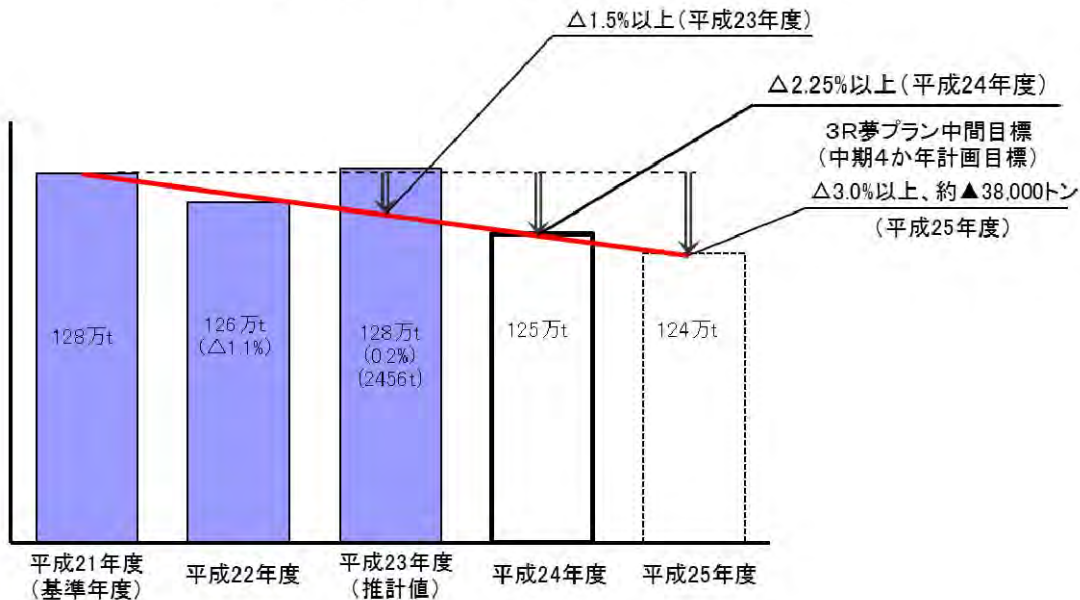
平成 23 年度 温室効果ガス排出量 (推計値) 【単位：トン-CO₂】

| | 平成 23 年度 推計値 | 平成 21 年度 実績 | 平成 21 年度比 |
|--------------------|-----------------|----------------|--------------------|
| ごみの処理に伴う排出 (全体) | 256,000 | 282,000 | -26,000 (-9.2%) |

・1,000 トン未満を四捨五入しています。

コラム1：ごみと資源の総量実績と3R夢プランの目標の関係

図1：ごみと資源の総量実績と目標の関係



コラム2：温室効果ガスの排出状況

ごみ処理に伴って発生する温室効果ガスのうち、約9割が焼却工場でごみを焼却することで排出されます。その燃やすごみの焼却に伴い排出される温室効果ガスの約8割はプラスチック類の焼却によるものです。

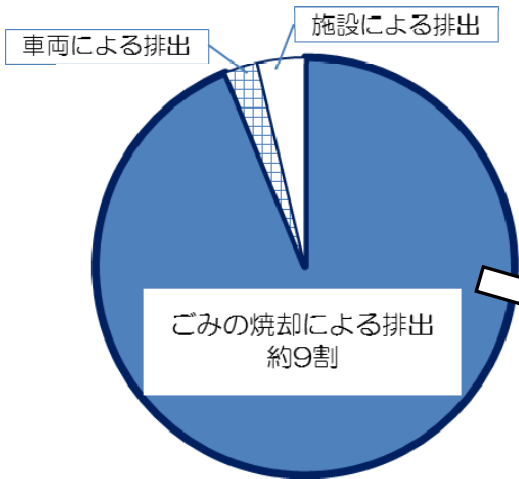


図2：ごみ処理に伴って発生する温室効果ガスの割合

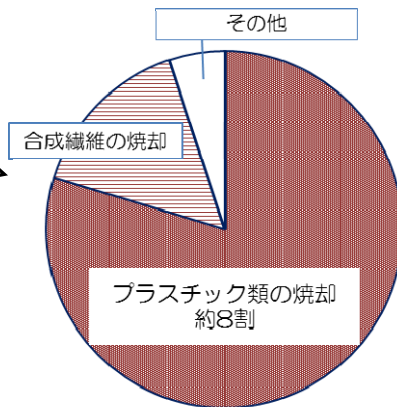


図3：ごみの焼却による排出の内訳

ごみ処理に伴って発生する温室効果ガスを削減するには、燃やされているプラスチック類を削減することが必要です。

平成 24 年度の目標と取組方針について

ヨコハマ 3 R 夢プランの実質的な 2 年目にあたる平成 24 年度は、中期 4 か年目標である平成 25 年度の 1 年前であり、勝負の年として、以下のような目標を設定します。また、目標達成に向けて、市民・事業者の皆さんに 3 R 行動を実践していただけるような働きかけを行います。

1 平成 24 年度の数値目標

(1) ごみと資源の総量

平成 21 年度比 **2.25%以上削減**

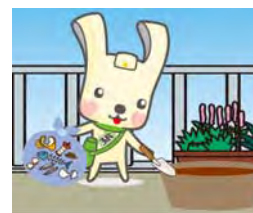
中期 4 か年計画では「平成 25 年度に平成 21 年度比 3 %以上削減」と定めており、平成 24 年度は目標を達成するため、4 か年計画の 3 年目として到達すべき目標を設定します。

コラム 3：目標を達成するためには、市民一人 1 日あたり 25 g 削減が必要

◇25 g を達成するための取組（例）は？

毎日、いくつかを組み合わせさせてやってみよう。

- ・買い物にマイバッグを利用してレジ袋削減。(約 10 g)
- ・マイボトルの使用やペットボトルを繰り返し使用(約 26 g : 500ml ペットボトル 1 本)
- ・コンビニで渡されるプラスチック製のフォークを断る。(約 3 g)
- ・箸を繰り返し使う。(約 4 g : 割り箸 1 膳)
- ・食べ残しをしない。
(家庭での 1 人 1 日あたり平均 11 g (農林水産省データ))
(外食時の 1 人 1 日あたり平均 18 g (農林水産省データ))
- ・生ごみの水切りをする。(約 10 g : ペットボトルキャップ 2 杯分)
- ・生ごみを、週 1 回だけ土壌混合法などで減量化
(1 日一人当たりの生ごみ排出量約 144g)



(2) ごみの処理に伴い排出される温室効果ガス

平成 21 年度比 **18%以上削減 (再チャレンジ)**

温室効果ガス排出量を平成 21 年度比 18%削減した平成 22 年度実績がありますので、平成 24 年度は再度この目標を設定し、チャレンジします。

[参考] 3 R 夢プランの平成 25 年度目標：平成 21 年度比 10%削減

※プラスチック類を分別・リサイクルすることが、ごみの処理に伴って発生する温室効果ガスの削減につながります。

(例：レジ袋(約 10 g) 1 枚を燃やすごみに入れてしまうと、15 L、約 28 g の温室効果ガスが発生します。)

2 取組方針

平成 24 年度は「3R夢アクションの年」として、市民・事業者の皆さんに 3 R 行動を実践していただくことで、目標達成を目指します。

(1) リデュース・リユース・リサイクルの具体的な取組を普及啓発します。

3 R 行動を市民・事業者に広げるため、わかりやすく取り組みやすい 3 R 行動を広報や地元説明会などを通して積極的に働きかけることで、取組への参加を促します。

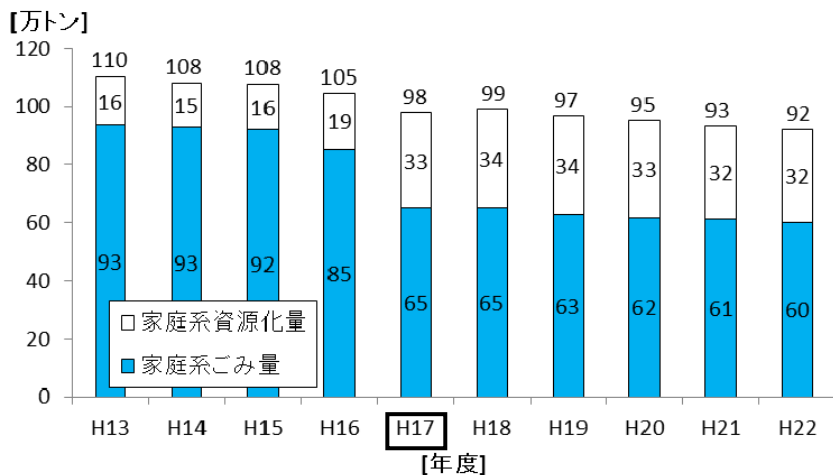
- ・ **リデュース**：生ごみを少なくする工夫
(食べ切り、水切り、家庭での処理、飲食店の小盛りメニュー拡大など)
- ・ **リユース**：繰り返し使用することで、ごみと資源を削減
(マイボトル使用、リユース食器、リユース家具の利用推進など)
- ・ **リサイクル**：市民・事業者の皆様分別・リサイクルを働きかけます。
(住民説明会、出前講座、早朝啓発、搬入物検査、立入調査など)

(2) 分別・リサイクルの更なる徹底を図ります。

燃やすごみには、まだまだ資源物が入っています。分別・リサイクルを徹底することで、ごみを減らし、温室効果ガス削減も目指します。

コラム4：分別の徹底は、ごみと資源の減量化につながる？

平成 17 年度から全市で分別が拡大されました。これに伴い、家庭から排出されるごみと資源の総量も減少しました。



※資源化量のうち資源集団回収について、平成16年度以前は暦年データ



(3) 地域の多様性に応じた区民の 3 R 行動を促します。

各区が地域の多様性に応じた行動目標等を設定し、区と局が連携して、区民の 3 R 行動を促進します。

(4) 職員が率先して 3 R 行動に取り組みます。

3 R 夢プランの目標達成には、職員一人ひとりの行動が重要です。自分ができるリデュース・リユース・リサイクル行動を実践することで、多くの市民・事業者の 3 R 行動につなげます。